

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果報告

4月18日と5月8日に実施された全国学力・学習状況調査結果資料より得られる、本校生徒の結果及び概要を報告します。この調査は、学力の一部を調査するもので、この調査結果を持って生徒の学力全体を評価するものではありません。あくまで、学習指導や学習状況の改善に役立てることが目的です。

### 1 学力調査の結果から

#### 【国語】

正答率の平均は、兵庫県と全国の値と比べるとほぼ同程度でした。「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」については若干上回っています。しかし、「思考力・判断力・表現力」についての問いでは若干下回っています。とくに自分の考えを書き、説明や表現することを若干苦手としているようです。国語への関心などは兵庫県と全国に比べて比較的高く、大切だと感じている生徒が多い傾向にあります。

#### 【数学】

正答率の平均は、兵庫県と全国の値と比べるとほぼ同程度でした。データを活用する問題では、兵庫県と全国の値と比べると、正答率が高いです。しかし、図形の証明問題や空間図形の問題では、兵庫県と全国の値と比べると正答率が若干下回っています。「知識・技術」を問う問題については、兵庫県と全国の値と比べてもほぼ同程度でしたが、とくに記述式で「思考・判断・表現」を問う問題の正答率が若干下回っていました。

「数学の勉強が好きだ」または「どちらかといえば好きだ」と感じている生徒が約半数です。また、「授業の内容がよくわかる」または「どちらかといえばよくわかる」と感じている生徒は多数います。

#### 【英語】

正答率の平均は、兵庫県と全国の値と比べると若干下回っています。「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」については、全体的に全国の平均値と比べると若干下回る傾向がみられます。とくに自分の考えや意見を簡単な英語で書く力が弱く、無解答の生徒も多い傾向にあります。短答式でも記述式でも正答率が低い傾向がみられます。

「話すこと」についての平均正答数は、全国と比べてあまり差はみられないものの、「思考・判断・表現」を問う問題では、全国の平均値を下回っていました。また、自分の考えを簡単な英文で表し「発表する」問いについては、全国的に見ても正答率はかなり低くなっており、本校も同様にかなり正答率が低い状態でした。英語で表現することに努力はしていますが、適切な英単語や英文を使って表現することができていなかったようです。

英語への関心は、兵庫県と全国の値と比べて少し低いですが、「英語の勉強が大切だ」と感じている生徒は多く見られました。また、「英語の勉強が苦手だ」と感じている生徒が半数近くいますが、多数の生徒が、「将来社会に出たときに役に立つ」と考えています。

## 2 生徒質問紙の回答結果から

生徒質問紙の回答結果から、すべての生徒が「いじめはどんなことがあってもいけない」と思っています。規範意識が兵庫県と全国の基準よりも高い傾向にあります。

「地域の行事に参加している」生徒の割合が兵庫県と全国に比べて高く、「日本や住んでいる地域について外国の人にもっと知ってもらいたい」と感じている生徒の割合も高くなっています。

学習の状況に関しては、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」や「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と感じている生徒の割合は、兵庫県や全国基準と比べて高いことがわかります。また、すべての生徒が「学習の中でPCやタブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と考えていることがうかがえます。

しかし、「自分には良いところがある」という問いでは、兵庫県と全国の基準と比べ若干低く、自己肯定感が少し低い傾向にあるといえます。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」生徒の割合が若干低く、「学校の授業以外で普段（月～金）1日当たりどのくらいの時間勉強しますか」や「土日など学校が休みの日に1日当たりどのくらいの時間勉強しますか」の問いでは、兵庫県と全国基準と比べて、1日の学習時間が全体的に短い傾向にあるといえます。「読書をする時間」や「読書が好き」であると回答する生徒の割合は、兵庫県と全国の基準と比べて高いです。また、多様な情報媒体の普及に伴って「新聞を読んでいる」割合は低い傾向にあります。